

# 三愛 view

発行所：三船病院相談室  
 創刊日：2003年8月15日  
 〒763-0073  
 香川県丸亀市柞原町366  
 Tel 0877-23-2341  
 Fax 0877-23-2344

## 三船病院に地域生活支援室設置



### 「経緯と今後への期待」

院長 三船 和史

精神科病院に入院した場合病状が改善して退院するのは当然のことですが、病気がなかなか良くならないために、あるいはある程度改善しても病気による障害がありしかも適切なサポートが得られないために退院できず長期入院に至っている患者さんたちがいます。特に後者の場合、彼らの退院実現は家族による援助だけに頼っていたのではうまくいかず、われわれ医療者の積極的努力が求められます。三船病院では昭和61年に彼らに対する住居と生活支援を提供するために共同住居「清和荘」（現在は福祉ホーム）を設置し、それによって多くの方が退院を実現させました。その後も種々の社会復帰施設等を整備し、当院に入院されている患者さんの退院後の生活に向けての選択肢は増えました。

しかし、現実にはなお退院できそうで退院に至っていない患者さんが少なからずいます。家族の反対が強い、本人の退院意欲がない、非現実的な地域内生活様式に固執する、などの要因が考えられます。従来のような主治医と精神保健福祉士等のコメディカルとの共同作業による退院援助だけでは、どうしても限界があったといわざるを得ません。そこで、病院全体の方針として積極的に退院を促進するための特別チームを作ること

が、より多くの患者さんの退院実現につながっていくと考え、平成16年9月1日三船病院内に地域生活支援室を設置しました。平成15年度に国のモデル事業として開始された、香川県退院促進支援事業の対象者として当院入院中の4名の長期入院患者さんが選ばれ、それぞれ市営住宅、共同住居、生活訓練施設などへの退院が実現し、積極的な退院支援の重要性と有効性を改めて認識しました。国は平成16年9月2日精神保健福祉改革ビジョンを発表し、新規入院患者の入院期間短縮と長期入院患者の退院促進を積極的に図り、今後10年間でわが国の精神病床を約7万床減じる方針を打ち出し、病院精神医療から地域精神医療への流れをこれまで以上に強調しました。これら2つの出来事が当院の地域生活支援室設置の背景となっていますが、それ以前から精神障害者の地域生活実現のために積極的に努力すべきであるとの考えで地域生活支援室設置の準備を進めてきました。

地域生活支援室は、三船病院がこれまでに培ってきた地域生活支援のノウハウの上に従来以上の積極的退院促進の機能を持つことによって、より多くの方の退院実現と彼らの地域内生活継続に寄与していくものと期待しています。

### 「地域生活支援室における退院援助」

精神保健福祉士 高田 裕子

当院では昭和50年代に精神科ソーシャルワーカー（以下PSW）が採用され、昭和58年に相談室を開設、ソーシャルワーク業務で個別相談援助を中心に地域活動などを行ってきました。近年では社会復帰に向けた相談室グループ活動なども用いて、医師や看護師等と連携し退院援助をしています。

この度、入院中の方に対して積極的な退院援助を行うこと・退院後の地域生活を支援するシステムづくりなどを目的に、平成16年9月三船病院相談室内に地域生活

支援室を設置、スタートしました。その機能として 長期入院者の中から積極的な退院支援を行う対象者を決定、多職種によるチーム及び関係機関と連携した具体的な援助を協議・計画・実施 訪問看護の実施 香川県退院促進支援事業など外部事業の活用 様々な外部機関・地域住民と有機的に連携した包括的な生活支援 住居など社会資源の開拓・就労支援活動のほか地域生活支援に関することの審議・活動などが挙げられます。専従職員は精神保健福祉士3名、非専従職員は



地域生活支援委員会

医師・看護師・作業療法士・栄養士などで構成され月に1回地域生活支援委員会を開き、活動の実践報告・課題の検討を行っています。

これまで、退院援助については主にPSWがご本人やご家族のニーズに基づき様々な社会資源の情報提供・動機付けをすることで、地域生活を実現するための援助を行ってきました。しかし、自らが退院を希望しない場合は入院が継続するという状況を招いています。また入院生活の中では社会での生活力を把握することが困難です。病状や能力障害、入院が長期化したことから生活障害も加わり、ご自身の希望を言語化して表現することが困難な方や入院生活が不自由ないからこのままがいいと言う方もいます。社会生活の楽しさを知らない・分からない・忘れてしまった・不安しかない などこれまで入院生活を継続する中で多くのことを諦め、様々なものを喪失してきた方々に対し、意欲を引き出し少しでも自信を持っていけるよう働きかけをすることは

PSWや医師のみでは難しく感じます。

今回、地域生活支援室では退院支援活動を行う対象者を決定し、多職種によるチームでの退院に向けた関わり(月に一度はご本人も含めて個別のケース会議開催)をしています。現時点での対象者は動機付けが難しくご家族の協力もなかなか得られない方が大半ですがただ一方的に情報を提供するだけでなく自分で実際に動いて体験することが大切であると考えます。そのためには病院全体として積極的に退院援助に取り組むこと、そして地域住民や関係機関と連携していくことが必要です。今月より今回の対象者に対して、社会復帰施設や保健福祉事務所・作業所の見学や話し合いをするグループ活動を計画中です。退院後の生活イメージを作る一翼となればと思います。今後も病院PSWとして当事者の声に耳を傾け、ひとりでも多くの方がそれぞれの望む生活を実現できるようなシステム作りに努めたいと考えています。



ケース会議

三船病院医師からのメッセージ...

「自助グループに学ぶ」

三船病院医師 内海 剛聡

断酒会やAAといったアルコール依存症者の自助グループを知って私の場合、医師という役割から離れてみても、いくつか学び得るところがあったと思います。

「一は手放して待つ」とのこと。言葉を換えて言つと、身近な相手をコントロールしようと思わない思いどおりに動かそうとしないことです。基本的に信頼、希望を抱いた上で相手と精神的に距離を置ける必要があり、依存症からの回復を目指す人達は日夜この困難と闘っています(何も依存症者やその家族に限ったことではないと思います)。

「二」目はある精神科医が語った「断酒会の心」とのこと。断酒会の心は、所有成功幸運等の世間的に価値あることの追求のみにとどまらないことです。また期待どおりの相手、期待どおりの現実状況ではなくともそれを受容し、刃従し、刃従ばかりでは困る局面もありますが、委託相手の可能性や自然の成り行きに委ねる(しよつとすることです。そして何は無くとも断酒維持できるだけで、幸福と実感するに至る断酒幸福)ことです。素朴な清々しい幸福感だと思えます。

最後に、彼等の貴重な体験談に触れ合う機会や本音トークができる仲間との関係は、何にも換えがたい宝と言えます。

# 部門紹介 三船病院 健康管理室

看護師長 五味 千恵子

健康管理室は広い芝生の庭を見ながら面会したり、入院されている方々の談話の場にもなっている静かな雰囲気のある中央館にあります。健康管理室の業務は職員の健康管理に関わることを主に行っています。

## 1) 雇入時の健康診断

医療法人社団三愛会に職員として採用された時行う健康診断です。

## 2) 定期健康診断

三愛会に勤務している全職員を対象に年1回4月に実施しています。

## 3) 特定業務従事者の健康診断

X線その他の有害放射線にさらされる業務、深夜業を含む業務、病原体によって汚染の恐れがある等の業務についている人を対象に行っています。病院では歯科医師・X線技師・検査技師・夜勤業務についている職員が対象となります。

## 4) 給食従業員の検便

三船病院と福寿荘の栄養士・調理師・売店アゴラパン加工・その他給食に従事している人を対象に6月～10月は月2回、11月～5月は月1回院内検査室で実施しています。

## 5) その他

月1回各部署への環境衛生点検表の配布、健康保健生活習慣病予防健診の申し込み、年1回赤十字血液センターの献血、計量器検査、医療廃棄物マニフェスト管理等の業務を行っています。

昨年10月に実施した健康診断結果では血中脂質検査で有所見者、要治療指示者が目立ちました。健康への関心を持っている人は多いですが、車社会の影響で運動不足になったり、飽食時代の中で美味しいものがすぐ手に入ったり、簡単な加工食品・冷凍食品になりがちな食生活を送ることが多いのではないのでしょうか。

健康管理室では、定期健康診断結果お知らせの中に各人の血液検査結果と肥満度B.M.I.(ボディ・マス・インデックス)を出し肥満の程度もお知らせしました。B.M.I.は体重を身長<sup>2</sup>で割った数値で、25未満に抑えられるよう勧められています。食事の量、間食、甘いもの、食べるのが早い等食事の摂り方を見直し、運動不足はエレベーターを階段に変えるなど、生活の中で歩量を意識して増やすよう心掛けることが大切です。生活習慣病の下地となるものを防ぐよう、このお知らせが普段の生活を見直す機会になればと思います。



## 三愛会 トピックス

11月11日(木)丸亀市民体育館において平成16年度中西讃地区デイケア親善レクリエーション大会が開催されました。6つの機関のデイケア計8チームがソフトバレーボールで対戦し、三船病院デイケアチームが見事優勝しました。

参加されたみなさんお疲れさまでした。

12月25日(土)三船病院にてクリスマス会を行いました。丸亀ユニオンジャズオーケストラのみなさんをお招きしクリスマスにちなんだ曲目の演奏がありました。その後は入院されている方々と職員と一緒に歌ったり踊ったり、劇をしたり、ハンドベルの演奏をしたりと楽しい一時を過ごしました。



丸亀ユニオンジャズオーケストラの  
みなさんの演奏





## 【介護老人保健施設 福寿荘】

看護師 川崎 美恵子

当施設では病状が安定期にあり、医学的管理下での看護や介護を必要とする要介護者に対して、施設サービスに基づき、看護・介護・機能訓練・その他必要な医療および日常生活上のケアを行っております。病状安定期とはいえ、慢性疾患を持つ高齢者ですので状態が急変しやすく、風邪などの軽症管理と共に緊急時の対応も必要となります。また時としてターミナルケアを施行することもあるため、気の緩みなど許されません。そして当施設はいち早く鍵や抑制を廃止し、各学校の実習生を受け入れるなど開かれた介護老人保健施設を目指してきました。施設長・看護師長の統率の下、明るく個性豊かなスタッフと共に各研修会へ積極的に参加したり、週1回は施設内で勉強会を開くなどしてより充実した看護・介護を目指し日々奮闘しています。

私自身、福寿荘に就職して三年が経ちました。治療を目的とした病院での看護と違い、看護の原点である生活介護が主のため、それぞれ課題を抱えて入所されている利用者の方々と毎日多くの関わりを持つことができます。毎月のレクリエーションの企画を一緒に考えることもその一つであり、密接に関わることで一人ひとりの状態を把握することができます。そして要介護度の高い方でも熱心に日々リハビリに取り組んでいる姿を拝見していますとスタッフの方が励まされ感心させられます。これからも個々のケア・プランの目標に向かって「一期一会」の精神で、利用者本人の思いを尊重したケア・サービスを展開していきたいと思っています。

## 【グループホーム五月荘】



世話人 松本 政昭

グループホームは家屋やアパートに4～6名程度で住み共同生活を送る住居です。社会参加と自立の促進を目的としています。身の回りのことがある程度自分ででき共同生活を営める方、日常生活を維持できる収入のある方等が対象となっています。

五月荘は平成6年5月に開設し、今年で11年目を迎えました。定員は4名で現在男性2名、女性1名の方が入居しています。日中は温泉や野球観戦に出掛けるなど自分の趣味に時間を費やしたり、買い物・居室の掃除をしたりと入居者はそれぞれ自由に生活を送っています。食事は朝食・昼食と各自で用意し、夕食は月曜から金曜のみ給食注文することができるので注文があれば世話人が届けます。そして日曜日には地域生活支援センターはなぞを通してボランティアの方が食事を作りに来てくれています。

地域生活支援センターや病院からPSWが近況確認・情報交換などのため定期的に訪問してくれているので、今後も各スタッフと協力して入居者の生活をサポートしていきたいと思っています。

### 三船病院からのお知らせ

【行事予定】

・2月 節分

【委員会】

- ・地域生活支援委員会(第1水曜日)
- ・行動制限最小化委員会(第1金曜日)
- ・身体拘束廃止委員会(第1金曜日)
- ・医療安全管理委員会(第2水曜日)
- ・院内感染対策委員会(第3金曜日)
- ・褥瘡対策委員会(第4水曜日)



### 編集後記

新年明けましておめでとうございます。新春とは名ばかりで寒気日増しに厳しくなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて今回(第6号)では三船病院に設置した 地域生活支援室 について特集しました。平成15年度は中讃地区において、今年度は県全域において香川県退院促進支援事業の取り組みがなされております。福祉分野全体が「地域生活支援へ」という動向の中で三船病院としましても、これまで何らかの理由で退院に結びつかなかった方々が少しでも早くご自身の望む生活をイメージし、選択し、実現できるよう独自のチームでの退院支援に力を入れていきたいと思っております。また動きがあれば三愛viewでもお知らせできるかと思っております。  
お楽しみに。  
(三船病院相談室PSW)